

大分駅南地区における複合文化交流施設の諸機能に関する研究(その1)

正会員

矢野佑一

同 牧田武* 同 佐藤誠治**

同 小林祐司*** 同 姫野由香****

公共施設

複合文化交流施設

市民アンケート

1. 研究の背景・目的

現在、大分駅周辺総合整備事業の進んでいる大分駅南地区において複合文化交流施設の建設が予定されている。この施設は新大分駅南口付近に建設が予定されており、大分市都市計画マスタープランに示されている大分駅南地区のコンセプト「情報文化新都心」の中心となる施設である。昨今の住民参加型の施設計画や民学産官の連携など、自治体以外の積極的な参画による施設計画等が望まれている。現在、複合文化交流施設の施設内用は未決定な部分が多く、今後の議論を含め慎重な施設内容の検討が必要である。

本研究では、現在、整備の続いている大分駅南地区に建設予定の複合文化交流施設の重要性を整理するとともに、大分市の施設計画の経緯をまとめる。また、大分市と協力し大分市内における既存公共施設の現状調査および公共施設内容に関する市民意向調査を行う。以上の調査により大分市の関連部局の考える施設内容、既存公共施設の現状からみた不足機能、市民の必要としている機能の三つの視点から複合文化交流施設の施設内容を検討し、今後の施設計画の方向性を明らかにすることを本研究の目的とする。

2. 大分駅南地区概要

複合文化交流施設が計画されている大分駅周辺では、現在、大分駅周辺総合整備事業が進められている。大分駅周辺総合整備事業は、「大分駅付近連続立体交差事業」、「大分駅南土地区画整理事業」、「庄の原佐野線等関連街路事業」を三位一体の事業として総合的なまちづくりを行うものである。中でも、土地区画整理事業を行う大分駅南地区は、大分駅の高架化による操車場跡地や旧国鉄清算事業団用地など都心に残された大規模空地の有効高度利用が期待されることから、中心市街地に都市環境の整備と情報機能、交通結節点機能といった高次都市機能の集積を図り、21世紀の新たな都市拠点の形成を推進していくものである。



図1 大分駅周辺総合整備事業全体図

3. 複合文化交流施設計画敷地および周辺現状

複合文化交流施設は駅南・情報文化新都心にふさわしい駅南まちづくりを先導する中核的な施設として位置づけられている。複合文化交流施設の用地は、公共交通拠点の中心となるJR大分駅から100メートルと近接し、都市軸を構成するシンボルロードに面した約19,000㎡の面積を有する大規模な用地である。

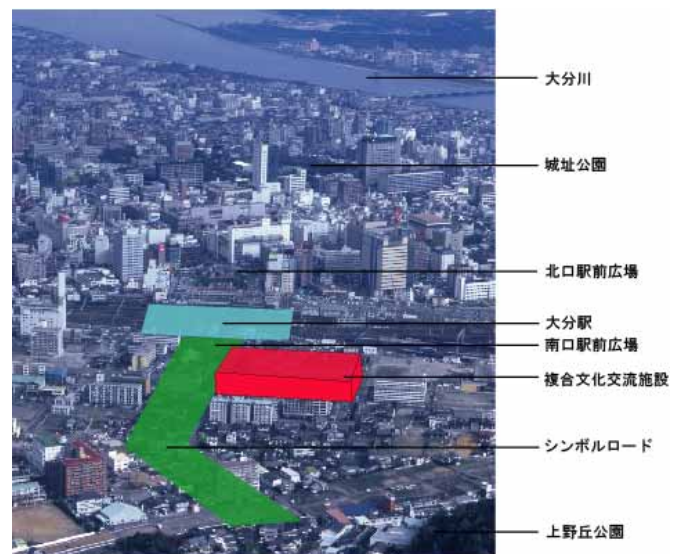


図2 複合文化交流施設計画敷地

4. 複合文化交流施設計画概要

複合文化交流施設は、駅南情報・文化新都心の中核施設として位置づけられており、「情報」、「文化」、「交流」をテーマとした施設整備を検討する必要があるとされている。大分市出身の建築家である磯崎新氏により描かれた「希望誘導空間構想」において文化施設や広場を中心とした都心の集客拠点として整備のイメージが提案されている。また、「(仮称)大分市総合社会福祉センター」の設置について、複合文化交流施設との合築も視野に入れられており施設内に福祉の機能が複合してくると考えられる。大分市が複合文化交流施設に必要と考えている機能を大きく8つの機能(公園系、情報系、ファミリー系、産学官系、ホール系、展示系、会議室系、総合社会福祉センター)に分類し、さらにそれら8つの機能同士の関係性を考慮しながら、それぞれの関連性を示したものを以下の図3に示す。

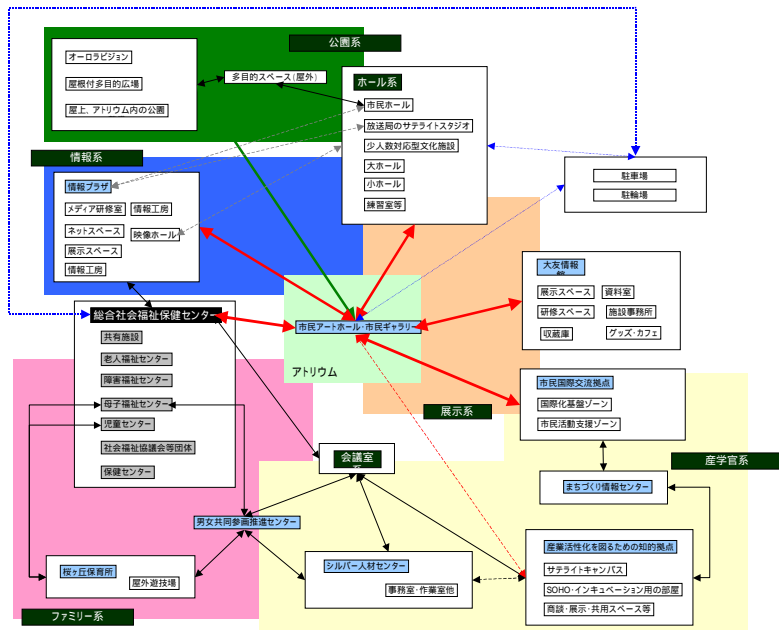


図3 機能の関連図

表1 大分市公共施設機能基本データ

施設名	施設総面積 (㎡)	駐車場(一般) (台)
大分市役所	41,747.0	294
鶴崎支所	6,101.0	95
稲田支所	5,939.0	189
大南支所	710.0	9
大在支所	737.0	27
坂/市支所	1,060.0	38
佐賀間支所	2,095.0	5
野津原支所	3,371.0	56
明野出張所	751.0	0
本神崎連絡所	169.0	10
一尺連絡所	130.0	2
今市連絡所	18.1	50
金池会館	2,459.0	22
大分南公民館	6,026.4	100
大分西部公民館	2,889.7	45
明治明野公民館	4,789.8	38
南大分公民館	3,669.9	70
大南公民館	4,123.6	50
鶴崎公民館	2,889.0	33
稲田公民館	4,987.0	73
坂/市公民館	3,296.0	20
大在公民館	4,958.8	50
佐賀間公民館	5,701.0	20
野津原公民館	8,280.0	50
グリーンカルチャーセンター	12,276.0	45
コンパルホール	23,387.29	187
大分文化会館	3,512.0	150
平和市民公園能楽堂	1,801.8	79
大分市情報学習センター	2,245.0	45
大分市美術館	9,085.0	170
アートプラザ	4,081,551	-
市営陸上競技場	29,905.0	199
南大分体育館	-	302

5. 大分市公共施設機能実態調査

大分市内に点在している 33 公共施設を対象とし、実態調査を行う。大分市内の公共施設の施設機能、施設規模、稼働率などを調査・分析することにより現状を把握する。その結果をもとに複合文化交流施設の必要機能を大分市内の公共施設現状から検討することを目的とする。

大分市内に位置する大分市が管理運営する 33 の公共施設を調査対象施設とする。各施設は大分市のホームページ上に登録されている公共施設である。公共サービス、情報、文化、スポーツなどの機能を中心とする施設構成となっていて、計画予定の複合文化交流施設の施設内容と関連性があると思われる施設を選定し調査する。調査対象施設は表1に記載されたものである。

調査票の構成は、調査対象施設リストと各施設ごとの実態調査表により構成される。実態調査表の内容は以下のとおりである。情報について：施設総面積、稼働率の把握 機能について：各施設の機能把握、室数・総面積などの具体的な施設規模の把握 駐車場・駐輪場について：収容可能台数の把握 その他について：施設へのアクセスの把握の4項目である。

得られたデータをもとに基本データをまとめたものの一部を表1に示す。

それぞれの施設データを基に、機能の大分類ごとに比較・分析することにより得られた大分市の公共施設の現状を以下に示す。機能大分類とは、各施設の機能を、多目的(客席あり)、多目的(客席なし)、情報、福祉、特別活動、会議、図書、飲食・店舗、体育(屋外)、体育(屋内)体育(付属)、展示、その他の13に分類したものである。

得られた結果として、現状の大分市の公共施設で不足している機能は以下の三つと考えられる。

- 1、客席のある床面積 1000 ㎡以上の大規模な多目的ホール、小規模なホールを複数持つ施設
- 2、情報・福祉機能
- 3、飲食・店舗など、休憩をしたり余暇を過ごすような機能を併設した施設

その他に現在、大分市の公共施設の中心的な役割を果たしているコンパルホールが、新しく計画されている複合文化交流施設と施設規模や複合する機能の内容、立地条件など多くの点で酷似していることが明らかになった。そのため今後、複合文化交流施設がどういった点でコンパルホールとは異なり、どういった個性を持った施設なのかを明確にしていく必要があると考えられる

6. 本稿のまとめ

本研究では複合文化交流施設に求められる機能を大分市が考える施設内容、現状の大分市内の公共施設における不足機能の二つの視点から必要機能を把握した。次稿において大分市民を対象とした複合文化交流施設に関する市民アンケート調査の結果から得られる、大分市民の考える必要機能を把握する。以上の三点から、今後の複合文化交流施設計画の方向性を明らかにする。

【参考文献】

- 1) 幸健太郎, 片山義広: 大分市の都市軸形成に関する考察～世界の都市軸から～, 日本建築学会計画系論文集 p.575-579 2006.9
- 2) 小島徳裕: 大分県南土地区画整理事業地区内における土地利用変化と諸機能立地のありかたについて, 平成 16 年度大分大学都市計画研究室修士論文

* 大分大学大学院工学研究科博士前期課程

** 大分大学 副学長・工博

*** 大分大学工学部福祉環境工学科建築コース 準教授・工博

**** 大分大学工学部福祉環境工学科建築コース 助教・工博

* Graduate Student, Master's Course, Graduate school of Eng., Oita Univ.

** Vice-President, Oita Univ., Dr. Eng.

*** Associate Prof., Dept. of Architecture, Faculty of Eng., Oita Univ., Dr. Eng.

**** Research Associate, Dept. of Architecture, Faculty of Eng., Oita Univ., Dr. Eng.